

2026年、フェルッチョ・ブゾーニ生誕160年。

師ブゾーニと弟子レオ・シロター二人が紡いだ音楽の系譜が、この夜、東京に甦える。

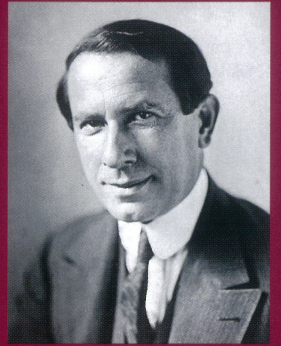


フェルッチョ・ブゾーニ (1866-1924)

J.S.バッハ未完の《フーガの技法》に触発されて書かれた《対位法的幻想曲》(1910)は、ブゾーニの創作の頂点に位置する大傑作です。対位法の極致を示すと同時に、20世紀音楽の先駆けとなった革新性を備えながら、その規模と難易度ゆえに実演の機会はきわめて稀です。

この記念の年にその金字塔を東京で響かせるのは、世界的ピアニストで日本文化にも精通するサラ・デイヴィス・ビュクナー。2025年にはハンブルクのアルゲリッチ・フェスティバルでマルタ・アルゲリッチと共演し、その実力が改めて認められました。

さらに今回は、弟子のレオ・シロタにも光を当てます。1929年に再来日したシロタは、1946年までの約20年弱を日本で教育・演奏活動に捧げ、日本の音楽界に大きな足跡を残しました。



レオ・シロタ (1885-1965)

東京では40年振りとなるサラ・デイヴィス・ビュクナーの本格的ソロリサイタル。
過去と現在、日本と西洋をつなぐ「文化的対話の場」がここに現れる。

Sara Davis Buechner

サラ・デイヴィス・ビュクナー (ピアノ)

サラ・デイヴィス・ビュクナーは、1959年生まれ。ニューヨーク・タイムズに「知性と誠実さ、圧倒的な技術を兼ね備えた音楽家」と評される世界的ピアニストです。ジーナ・パッカウアー国際ピアノコンクール優勝、チャイコフスキー国際コンクール銅メダルをはじめ、エリザベート、リーズ、シドニーなど数々の国際コンクールで受賞歴を誇ります。ニューヨーク・フィル、フィラデルフィア管、BBCフィルなど著名オーケストラと125曲以上の協奏曲を共演し、カーネギーホールやリンカーンセンターなど名だたる舞台に登場してきました。録音も高く評価され、ブゾーニ編曲による《ゴルトベルク変奏曲》世界初録音はニューヨーク・タイムズ紙で特集され、アメリカ音楽の録音では数々の賞を受賞。2025年にはマルタ・アルゲリッチの招きでハンブルクのアルゲリッチ・フェスティバルに出演し共演を果たしました。

教育者としても国際的に活動し、ジュリアード音楽院や王立音楽院などでマスタークラスを行い、テンプル大学教授として後進を指導。さらに、現代を代表するトランスジェンダー音楽家としても注目され、多様性と包摂の象徴として活動を続けています。日本文化への深い愛着を持ち、阪神タイガースの名誉メンバーに任命されるなどユニークな親日家としても知られています。



ルーテル市ヶ谷ホール

